

令和3年7月7日

御家庭内での子どもの溺水事故に御注意ください！

－入浴後はお風呂の水を抜く、ベビーゲートを設置するなどの対策を－

子どもが浴室で溺水し死亡する事故が多く発生しています。

厚生労働省「人口動態調査」及び医療機関ネットワーク事業の事故情報を消費者庁で分析したところ、以下のことが分かりました。

- ◆ 子どもの中でも0～1歳の入浴中の溺水事故が最も多い
- ◆ 子どもの入浴中の溺水事故は入院が必要と診断されている事故が半数以上で、死亡事故も発生している
- ◆ 大人が少しの時間目を離している隙に発生する事故が多い
- ◆ わずかな水深でも事故が発生している

御家庭での子どもが溺水する事故を防止するためのポイント

子どもの見守り

- ① 大人が洗髪する際には、子どもを浴槽から出しましょう。浮き輪の使用中でも事故が発生しています。
- ② 子どもは大人の後には浴室に入れ、先に浴室から出しましょう。
- ③ 子どもだけで入浴させないようにしましょう。

浴室等の水回りの環境づくり

- ① 子どもが小さいうちは、入浴後は浴槽の水を抜くことを習慣にしましょう。
- ② 子どもだけで浴室に入れないう、ベビーゲートなどを設置しましょう。
- ③ 使用後の洗濯機、洗面器、バケツに水をためたままにしないようにしましょう。また、洗濯機にはチャイルドロックをかけて蓋を開けられないようにしましょう。

子どもは声や音を出さず静かに溺れることもあります。少しの時間、少しの水量と油断せず、子どもの見守りと合わせて溺水事故が起こらない環境づくりを行いましょ！

1. データで見る事故情報

(1) 厚生労働省「人口動態調査」

厚生労働省「人口動態調査」¹によると、平成27年から令和元年までの5年間で、14歳以下の子どもの溺水による死亡事故は不慮の事故の中での死因の上位を占めており、1歳では不慮の窒息に次いで、3歳以上では交通事故に次いで多いことが分かります（図1）。

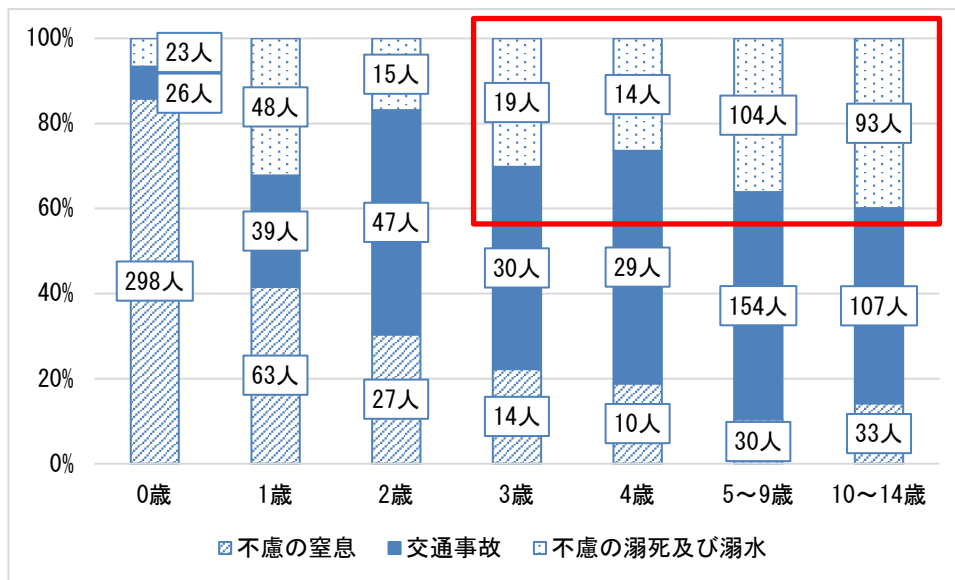


図1 不慮の事故の死亡数1位～3位（年齢別比率）

年齢別に見ると、0歳～1歳では浴槽での溺水、より活動的になる5歳以上では自然水域での溺水事故が最も多く発生しています。浴槽での溺水事故は5歳以上でも多く発生しています（図2）。

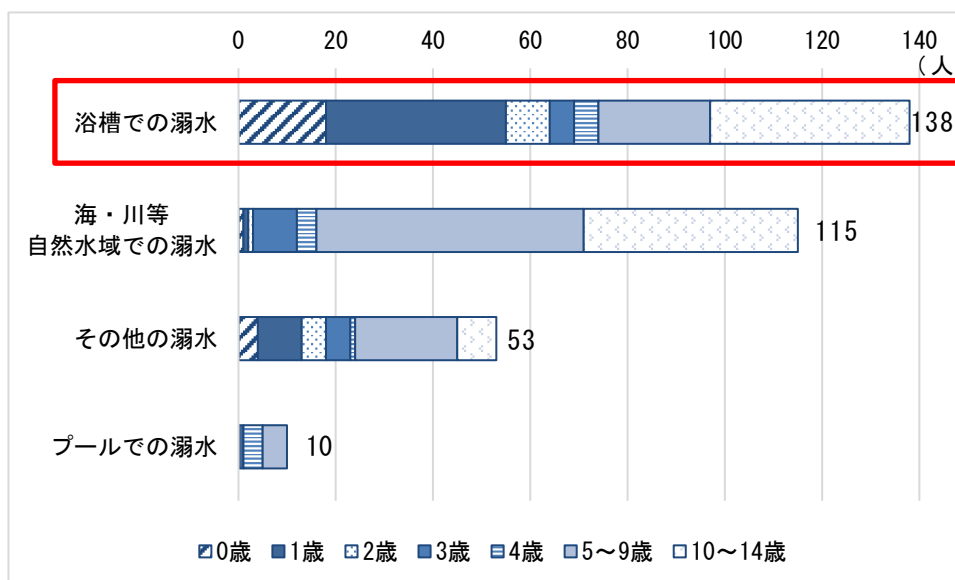


図2 不慮の溺水事故の年齢及び死因別死亡数（平成27年～令和元年）

¹ 厚生労働省「人口動態調査」 下巻 死亡 第1表-1 死亡数，死因（三桁基本分類）・性・年齢（5歳階級）別（ICD-10コード V～Y、U） W65～74 不慮の溺死及び溺水

(2) 医療機関から寄せられた事故情報

消費者庁・独立行政法人国民生活センターには、医療機関ネットワーク事業²を通じて、14歳以下の子どもが溺水したという事故情報が令和3年5月までに100件寄せられています。発生状況別に見ると、74件（74%）が家庭での入浴中に発生していました（図3）。また、入浴時間外に浴室に入り、浴槽に転落した事例も見られました。

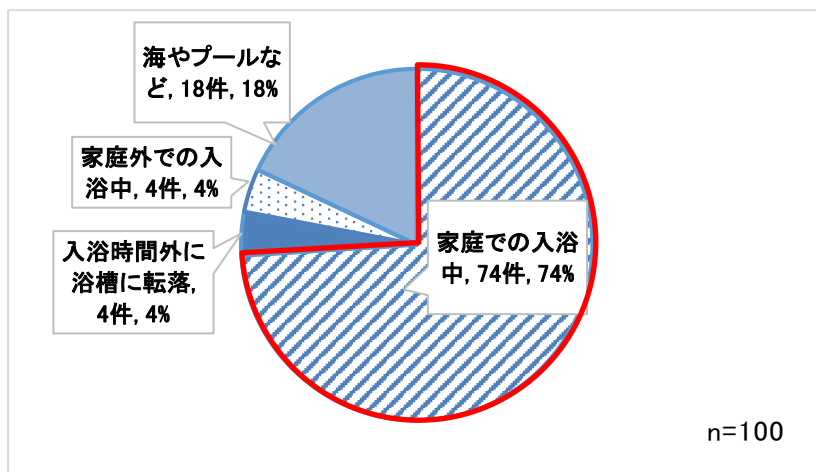


図3 溺水事故が発生した状況

家庭内で発生した溺水事故78件の年齢別の要因・背景を見てみると、0歳と1歳での事故が多く、51件、約7割が保護者等が目を離している間に発生しており、その割合は1歳で最も高くなっていました（図4）。また、ベビーバスなどを使用している0歳では、お風呂の蓋の上に乗せていた際に、転落して溺水する事故が発生していました。

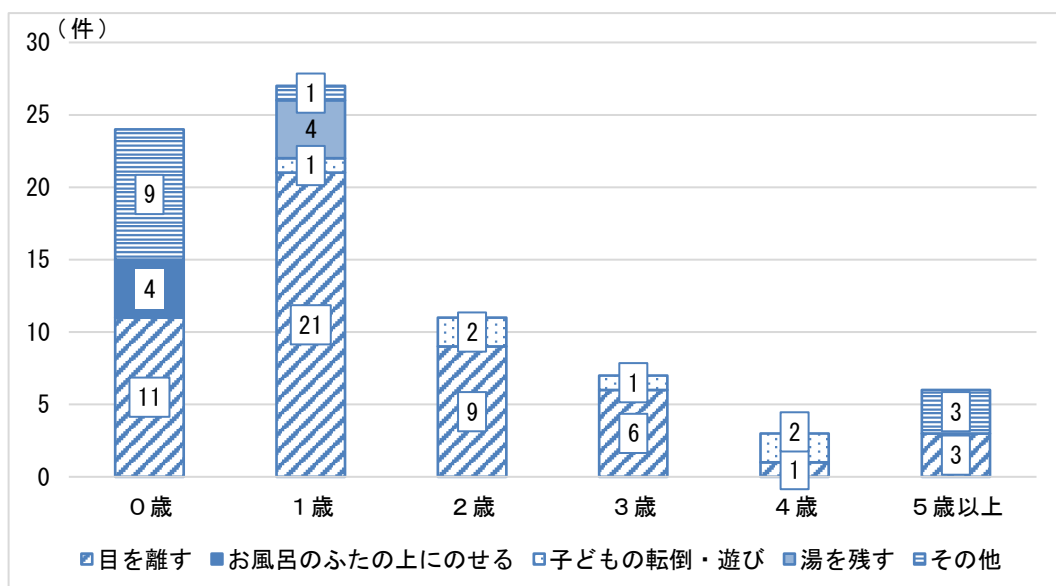


図4 家庭内で発生した入浴中等の事故の年齢別要因・背景

² 「医療機関ネットワーク事業」は、参画する医療機関（令和3年5月末時点で30機関が参画）から事故情報を収集し、再発防止にいかすことを目的とした、消費者庁と独立行政法人国民生活センターとの共同事業（平成22年12月運用開始）。ただし、医療機関数は変動している。件数は本件のために消費者庁が特別に精査したものの。

入浴中に保護者等が目を離した 51 件の事故の詳細な状況は様々ですが、主に以下のように分けることができました（図 5）。保護者が子どもと一緒に入浴していても、入浴中に保護者自身の洗髪などにより目を離してしまう、子どものみを浴室に残したままにしてしまうなどして事故が発生しています。

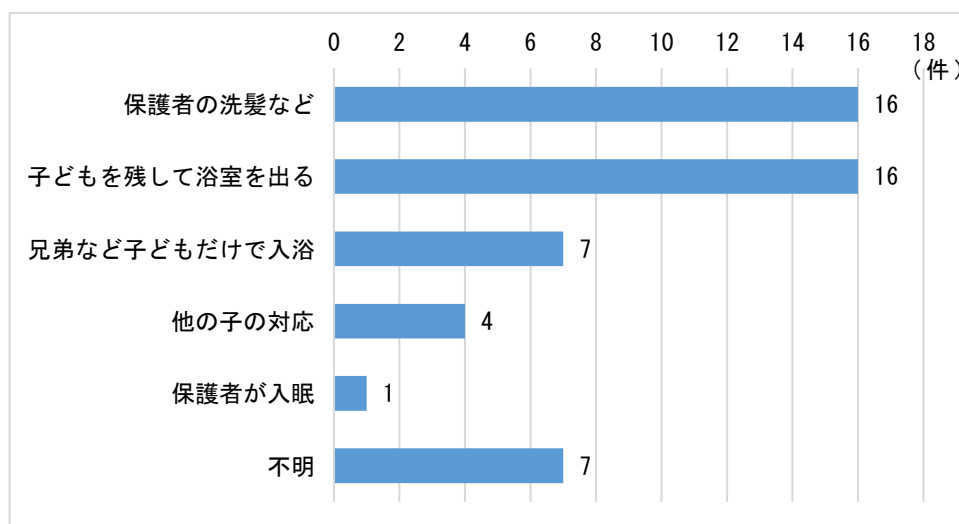


図 5 保護者等が目を離した詳細な状況

治療の必要性と処置別に見ると半数以上が入院を必要とする事故であり、死亡事故も発生しています（図 6）。

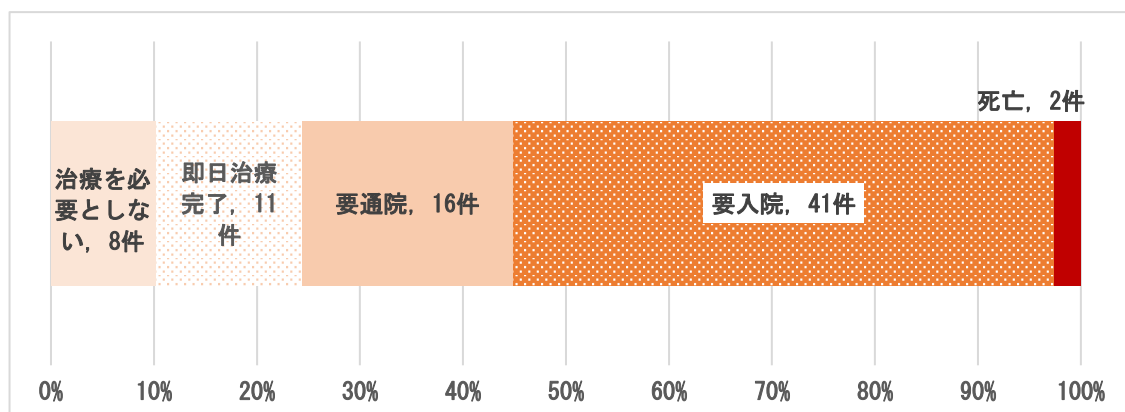


図 6 家庭内で発生した入浴中等の事故の治療の必要性と処置状況の内訳

子どもの溺水事故 100 件のうち、水の深さの言及があった中で最も浅かったものは約 10 cm でしたが、水を含んだガーゼで保護者が子どもの顔を清拭中や子どもが顔を湯面につけて遊んでいる最中にも溺水事故は発生しており、水が鼻や口を覆う状況であれば、溺水することを示唆しています。

(参考) 日本小児科学会小児救急委員会が行ったアンケート調査³によると、『「溺れかけた時に悲鳴や助けを求めるような声を出していましたか?」という質問に対しては「出していなかったと思う」が未回答 13 例を除く 1,156 名中 1,000 名 (86.5%) と最も多く, 「出していたと思う」は 109 名 (9.4%) であった. また、溺れかけた時にバシャバシャ水しぶきを上げるなど音がしましたか?』という質問に対しては「音はほとんどしなかった」が未回答 29 例を除く 1,140 名中 387 名 (33.9%), 「バシャバシャ音を立てた」は 688 名 (60.4%) であった. 』とされており、音を立てずに溺れていく事例も少なくないことが分かります (図 7)。

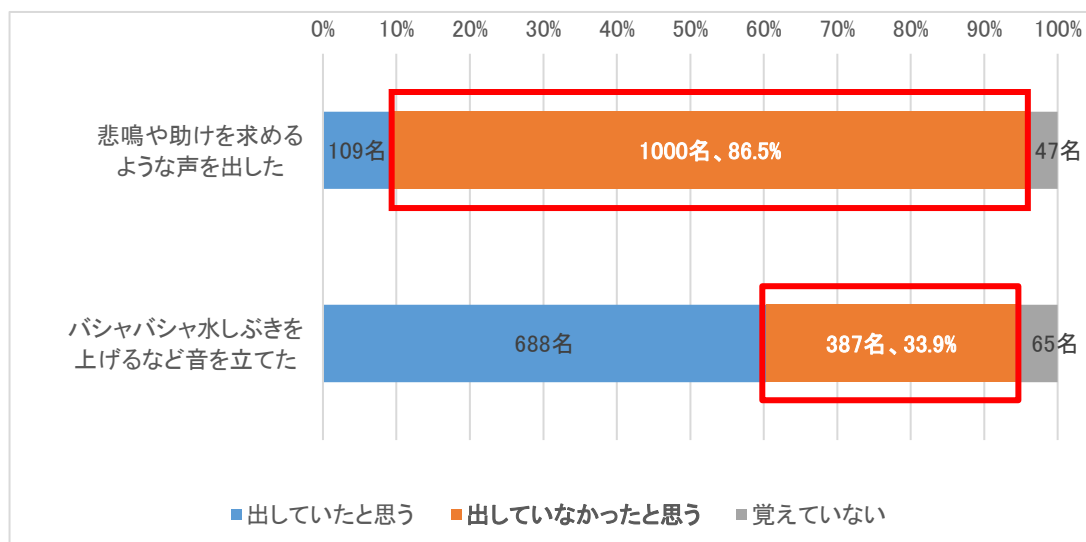


図 7 溺水トラブル時の子どもの様子

³ 日本小児科学会小児救急委員会, 未就学児の家庭内入浴時の溺水トラブルに関するアンケート調査結果. 日本小児科学会雑誌, 2021. 125(3): p. 534-539.

2. 主な事事故事例

【事例1／保護者が子どもを浴室に残して発生した事故】

保護者と入浴中、保護者が10分ほど浴室を離れていたところ、仰向けで浴槽に浮かんでいるのを保護者が発見した。意識・呼吸がなく、胸骨圧迫を開始した。

(医療機関ネットワーク事業、発生日月：平成30年10月、4歳男児、要入院)

【事例2／保護者が洗髪中に発生した事故】

保護者と入浴中、保護者が洗髪のため約1分間目を離している間に水没。保護者が気付くと頭部を下に、体を横に向けた状態で完全に顔面を水につけた状態で浮いていた。すぐさま浴槽から引き上げたが、反応がなく、呼吸が停止していた。保護者が人工呼吸を行ったところ、多量の水を嘔吐。また心拍が確認できなかったため胸骨圧迫を実施。

(医療機関ネットワーク事業、発生日月：平成27年3月、2歳男児、要入院)

【事例3／残り湯での事故】

昨晚の残り湯がたまっている浴槽に浮かんでいるところを発見された。すぐに引き上げたが反応がなく、呼吸が停止していた。駆けつけた保護者が心肺蘇生を実施。心肺蘇生後2～3分して嘔吐。その後、泣き始めた。浴室までのドアに柵はなく、浴室のドアは壊れていた。

(医療機関ネットワーク事業、発生日月：平成24年10月、1歳男児、要入院)

【事例4／お風呂の蓋の上での事故】

入浴後、半分折にしたお風呂の蓋の上に裸身のまま乗せて、保護者が脱衣所で身体を拭いていたところ、浴槽内のお湯の中に落ちた。頭も含めて、数秒間、全身がつかった。

(医療機関ネットワーク事業、発生日月：令和元年5月、0歳男児、要入院)

【事例5／首浮き輪での事故】

入浴のために首に浮き輪をつけ浴槽に浮かべていた。5分ほどして、保護者が脱衣所から浴室に戻ると浴槽の底に沈んでいた。硬くなり呼吸もしておらず、別の保護者が胸骨圧迫を開始し救急要請している間に泣き出した。

(医療機関ネットワーク事業、発生日月：平成25年12月、0歳男児、要入院)

【事例6／座るタイプの浮き輪での事故⁴⁾】

浴槽用浮き輪をつけて浴槽で遊ばせていたら、回転して顔が水中に潜った。そばで見ていた保護者が2秒くらいで引き上げた。呼吸停止や意識消失は無く、医療機関を受診したが異常はみられなかった。

(日本小児科学会 傷害速報、発生日月：平成30年9月、0歳男児)

⁴⁾ 日本小児科学会 Injury Alert (傷害速報)「浴槽用浮き輪による溺水 (No. 4 浴槽用浮き輪による溺水、No. 18 解決したはずの浴槽用浮き輪による溺水 (2009年3月、10月の2例)の類似事例3)」を基に、一部記載内容を編集。

3. 保護者の皆様へ、事故防止のためのポイント

家庭内で起きる子どもの溺水事故は、特に、0～1歳の子どもで多く発生しています。保護者が目を離したほんの少しの間でも溺水は起こります。一緒に入浴していても、保護者の洗髪中などは子どもを浴槽から出しておくなど、以下のポイントを参考に、家庭内での子どもの溺水事故発生を予防しましょう。

(1) 子どもの見守り

- ① 大人が洗髪する際には、子どもを浴槽から出しましょう。浮き輪の使用中でも事故が発生しています。

子どもは音をたてずに静かに溺れる場合もあり、保護者が洗髪中のほんの少しの間でも目を離していると子どもの溺れに気付けない可能性があります。必ず浴槽から出しましょう。どうしても難しい場合は、目を離している間は子どもと会話を続けるなども対策の一つです。入浴の際に、複数の保護者が関わるようにすればより安全です。



また、子ども用の浮き輪は救命用具ではなく、子どもが一人で使用する商品ではありません。腕の届く範囲で、万が一の時にすぐ助けられる状況でのみ使用してください。

- ② 子どもは大人の後に入浴に入れ、先に浴室から出しましょう。

保護者がタオルを取りに行く、着替えを取りに行くなど、ほんの数秒と思える時間でも、子どもより先に浴室を出るなどして子どもから目を離した隙に、子どもが浴槽内で溺れる事故が発生しています。子どもは後から浴室に入れ、浴室から上がる際は子どもを先に出すようにしましょう。複数の大人が関わり、少しの間でも、子どもを浴室に一人きりにしないことが大切です。

- ③ 子どもだけで入浴させないようにしましょう。

年上の子どもと一緒に入浴している際にも、溺水事故が発生しています。必ず大人が付き添いましょう。

(2) 浴室等の水回りの環境づくり

① 子どもが小さいうちは、入浴後は浴槽の水を抜くことを習慣にしましょう。

② 子どもだけで浴室に入れないよう、ベビーゲートなどを設置しましょう。

浴槽内にお湯が残っていたために、いつの間にか浴室に入り、浴槽に転落して溺れてしまった事故も発生しています。5分以上溺れてしまうと、神経学的な後遺症を残す可能性があります⁵。子どもが小さいうちは、入浴後は浴槽の水を抜きましょう。

また、入浴準備のため浴槽にお湯をためているときには、ベビーゲート⁶などで子どもが浴室に近づけないようにしておきましょう。

③ 使用後の洗濯機、洗面器、バケツに水をためたままにしないようにしましょう。また、洗濯機にはチャイルドロックをかけて蓋を開けられないようにしましょう。

少量の水でも鼻と口を覆う深さがあれば、溺れる可能性があります。少量の水と油断せず、洗濯機、洗面器、バケツなど水をためて使うものに、水をためたままにしないようにしましょう。

洗濯機は、子どもが覗き込んで落ちてしまった場合に、中に水がたまった状態だと溺れてしまう可能性があります。チャイルドロックをかけることで、溺水事故防止のほか子どもが洗濯中の洗濯機内に手を突っ込んで負傷するなどの溺れ以外の洗濯機での思わぬ事故を防ぐことができます。

同様に、トイレの便器内には常時水がたまっています。子どもが誤って便器に落ちてしまわないよう、子どもが小さいうちは便器の蓋は閉じておき、勝手に入れないようにしておきましょう。



(3) その他

お風呂の蓋の上に子どもを乗せないようにしましょう。

浴槽の蓋の上でベビーバスを使用して沐浴中や、子どもの体をふいていたとき、お風呂の蓋を半分開けてその上に子どもを置いたまま保護者が脱衣所で体をふいていたときなどに、浴槽の蓋が外れたりずれたりして、子どもが浴槽内に転落し溺水する事故が発生しています。

⁵ 野上恵嗣ほか，小児溺水の予後不良因子の検討．小児科臨床，2002．55(7)：p.1517-1523.

⁶ ベビーゲートは SG 基準など安全に配慮したものを選びましょう。対象年齢等を確認し、子どもの成長に合わせて使用し、乗り越えられる・開けられる場合は使用しないでください。

4. 万が一、溺れてしまった場合の対処法

- ◆ 浴槽から出し、平らな場所に寝かせましょう。
- ◆ 大きな声で呼びかけて反応をみます。反応がなければ119番通報をします。
- ◆ 反応と呼吸がなければ、直ちに心肺蘇生（胸骨圧迫と人工呼吸）を開始します。
- ◆ 応援を呼べるなら、その人に119番通報を頼み、救急車を呼びましょう。携帯をハンズフリーに設定し、救急隊の指示に従いましょう。
- ◆ 無理に水を吐かせないでください。胃の内容物で気道が塞がれて窒息する危険性があります。
- ◆ 心肺蘇生中に水を吐いた場合は、顔を横に向けましょう。
- ◆ 意識がある場合は、顔と体を横に向けて回復体位を取り、タオルなどで水気を拭き、包んで保温しましょう。この時も、無理に水を吐かせないようにしましょう。



救命講習はお近くの消防署などで受講できます。

総務省消防庁 応急手当 WEB 講習

(<https://www.fdma.go.jp/relocation/kyukyukikaku/oukyu/>)

5. 参考

東京都：「乳幼児の家庭内の水回り事故防止ガイド」

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2016/08/24/13.html>

東京消防庁：STOP！子どもの「おぼれ」

<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/topics/stop/stop03.html>

東京消防庁：乳幼児の溺れや窒息に注意

<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/topics/201210/obore/index.html>

日本小児科学会：こどもの救急

http://kodomo-qq.jp/jiko/index.php?pname=jiko_dekisui

<本件に関する問合せ先>

消費者庁消費者安全課

TEL：03（3507）9200（直通）

FAX：03（3507）9290

URL：<https://www.caa.go.jp/>

子どもを事故から守る！事故防止ポータル

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/child/project_002/



溺水から子どもたちを守るために

佐久総合病院佐久医療センター
小児科医長兼国際保健医療科医員
坂本 昌彦

■ 溺水の予後は悪い

溺水は病院に搬送して集中治療を施しても救命できなかつたり、重い後遺症を残すケースも少なくありません。だからこそ予防が大切になります。

溺水予防のために「溺れるときは静かな可能性がある」¹ことを知っていただきたいです。このメッセージは、「だから目を離すな」という風にとらえられがちですが、そうではありません。子育てはマルチタスクの連続で「目を離す瞬間はあるのが子育て」です。それを前提に、どのような予防策が有効かを考えたいです。

溺水による死亡事故の背後には500～600倍の溺れかけ事案があるとの報告があります²。ヒヤリとした事例からも学べることは多いです。事例を振り返りながら考えてみましょう。

【事例1】

3歳9か月 男児

下の子と保護者で自宅にて入浴していた。母が下の子の体を洗っており、児は浴槽にいた。シャワーを浴びるなどしておらず、特段音は立てていなかった。保護者がふと気が付くと本人の姿が見えず、覗き込むと浴槽の中であおむけの状態に沈んでいた。すぐに引き上げて背中をたたいたが顔面蒼白で1～2分ほどして意識回復。救急要請にて当院搬送。搬送中に2回嘔吐した。来院時は意識もはっきりしており、会話も問題なくできていた。胸部X線検査でも肺炎の所見はなく、血液検査、心電図、心エコー検査も異常を認めなかった。念のために入院管理としたが、特にその後も全身状態は変わらず良好で翌日退院となった。

※保護者も一緒に入浴していましたが、下の子の体を洗っている間に溺れた事例です。幸い問題なく回復しましたが、保護者に後日確認したところ「今から振り返っても声を上げたりバシャバシャすることはなかった」と答えており、音を立てずに静かに沈んだケースと言えます。常時目を離さない対応は現実的には難しいため、こまめに声をかけて返事を確認するといった工夫なども有効と考えます。

¹ 日本小児科学会小児救急委員会，未就学児の家庭内入浴時の溺水トラブルに関するアンケート調査結果．日本小児科学会雑誌，2021．125(3)：p.534-539.

² Orłowski, J. P., Drowning, near-drowning, and ice-water drowning. JAMA, 1988. 260(3): p.390-391.

【事例 2】

2歳2か月 男児

保護者と2人で旅行に来ており、宿泊先の大浴場に入っていた。保護者が自分の頭を洗っている間に1～2分ほど目を離し、洗い終えたところ姿が見えず、探していたところ浴槽の中であおむけに沈んでいた。水面下でもがいているように見えた。すぐに引き上げたところ咳込んで泣き始めた。周りに複数人いたが「溺れているようには見えず遊んでいるのかも」と思い、確信が持てず動けなかった」と言われた。体をふいて部屋に戻った後から機嫌が悪く、溺水と関係あるのではと思い救急要請。当院到着時は機嫌は悪いものの意識レベル低下はなく、採血、胸部X線も異常を認めなかったが、38.2度の発熱あり、溺水に伴う肺炎の可能性も考慮し入院の上抗菌薬にて治療開始した。翌日には解熱し、症状もなく元気良好であったため、2日後に退院となった。

※保護者の洗髪中に大浴場で溺れたケースです。溺水は「溺れているように見えない」と形容されることも少なくありません³。近くに人がいても気づかれないことがあり、溺れているのか遊んでいるのか確信が持てないときには声をかけて反応を確認します。返ってこなければ溺れている可能性を考えて対応することが必要です。

【保護者へのメッセージ】

4歳以下の子どもが溺水で亡くなる場所で最も多いのは自宅浴槽です。アメリカ小児科学会は、乳幼児が水の周りには大人が常に「腕の長さ以内」にいることが大事だとしています⁴。また子どもの動きは予想できません。一人でお風呂に近づいて事故に遭わないように、使わないときのお湯は抜いておく、お風呂に一人で行けないよう柵をつける等の工夫も有効です。また保護者自身が心肺蘇生法を学び、いざというときに子どもの命を守れるよう準備しておくことも大切です。

佐久医師会・佐久市

<教えて！ドクタープロジェクト>

<https://oshiete-dr.net/>

冊子「教えて！ドクター～子どもの病気とおうちケア」の配布、スマートフォンアプリの配信を行っています。

³ Modell, J.H., Drowning. New England Journal of Medicine, 1993. 328(4): p. 253-256.

⁴ Denny, S.A., et al., Prevention of Drowning. Pediatrics, 2019. 143(5).